

PTA会長あいさつ

PTA会長 志村 耕一

本年度、都留第一中学校のPTA会長を務めさせて頂いております。志村耕一と申します。どうぞ宜しくお願い致します。日頃から皆様にはPTA活動に対してご理解ご協力頂き誠にありがとうございます。

私もこの都留一中の卒業生でありとても懐かしく昔を思い出しました。私が中学に入學した時代は、今ではとても考えられない事ですが、日本全国で校内暴力という社会現象が蔓延して取り、この都留一中でもテレビ取材が来るほど問題になっておりました。昭和平成そして令和になりました。SNS上のトラブルといった社会問題をはじめ、友人・家庭環境などの問題も日々変化していく中、子供達の安心安全を第一に考えて学校生活を送れるように校長先生をはじめ先生方にご尽力頂き誠にありがとうございます。そして今年になっての大問題が全世界で蔓延している新型コロナウイルスの形で新年度が始まり四月早々から臨時休校、六月にようやく学校再開に向けての分散登校が始まり心配をしながらも安堵感を持ちました。PTA活動も感染防止の観点から第一回PTA理事会の中止に始まりPTA総会、学年部会も紙面会議にてさせて頂きました。ようやく七月に第二回PTA理事会が開催され、今度のPTA活動の方向性など話し合いがされ各専門委員会の行事も感染防止を前提に行う事に

なり、八月にはボランティア委員会を中心とした美化作業を行う事が出来ました。ありがとうございます。

このコロナ禍の中で学校行事も中止や制約がある中、すみよし祭が開催できた事は大変嬉しく思います。通常の開催とは違い半日開催となってしまいました。先生方の協力の中、生徒達が中心となり感染防止を考え、色々創意工夫しながら練習に取り組み、すみよし祭当日には競技での熱い闘い、そして伝統のソーラン節なども感動致しました。本当にありがとうございました。

先日、都留市・富士吉田市で感染報道がされました。感染拡大しない事を願うばかりです。いつ誰かが感染してもおかしくない状況であります。感染した人を誹謗中傷などしないよう家庭で話し合いの機会を持ち落ち着いた行動をお願い致します。皆様方もより一層感染防止を徹底して頂きこの歴史に残る困難を乗り越えていきましよう。今後とも子供達が安心安全に学校生活を送れるよう尽力致しますのでご協力を宜しくお願い致します。

学校長あいさつ

「社会に貢献しながら、自立する生徒の育成」
校長 杉本 賢二

コロナ禍における学校教育の推進に、ご理解とご協力を頂きましてありがとうございます。逆境の中でも、PTA活動を力強く推進して頂きました。

ボランティア委員会では、8月に学園祭のためのグラウンドの美化作業を実施し、教養委員会で、すみよし祭での「玉入れ競技」を実施を致しました。また、校外指導委員会では9月に、上谷6丁目信号付近で4日間にわたり「交通安全指導」をして頂きました。PTA会長の志村様を始め、各専門部長の皆様を中心に、より良い学校教育のためにご尽力頂きましたことに感謝致します。

さて、次年度より中学校では「新学習指導要領」を本格的に実施致します。新学習指導要領では、「より良い学校教育を通して、より良い社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、保護者や地域の皆様と連携・協働しながら、地域の未来の創り手となるために必要な資質・能力を育むことを重要視しています。

そこで、本校の学校教育目標と生徒の現状について説明致します。学校教育目標は、「社会に貢献しながら、自立する生徒の育成」です。

学校での学びは、学習した内容自体が尊いのではなく、その学びや培った力を生かし、「誰かに貢献すること」こそが尊いのだと考えています。新型コロナウイルス感染症も、いずれ優秀な知識や技能をもち、世界の人の健康と命の問題に正面から立ち向かう志有る人間によって、必ず克服される日が来ると信じています。本校の生徒一人一人が、興味や関心、特性を生かして職業に就き、社会に貢献しながら「ありがとう」という言葉を生きがいにして、人生を歩んでいくと欲しいと願っています。

学年生徒会長より

一学年生徒会長 中野 うらら

私たち一学年は、今年一年間を通して大きく成長できたと思えます。例えばすみよし祭です。今年

本校では、面接・観察・調査（標準化検査QIU・学校生活アンケート）等を使って生徒の現状を把握しています。二学期までの状況では、全校生徒の学級の満足度は60%で、全国の中学校の平均より約20%高い状況です。一学期と比較して、不登校が心配な生徒は90%減少しました。また、不登校は、昨年度と比較して73%減少しました。現状では、いじめの解消率も100%です。学力も県下の中学校レベルにはあります。真面目で誠実な生徒が多く、保護者や地域の愛を享受しながら成長している生徒が多い学校です。その反面、学ぶ意欲が極端に低く、人に迷惑をかけたリ、繰り返して指導を受けている生徒もいます。しかし、そこには様々な背景があり、現象のみにとらわれては教育は進まできません。教職員は、「どの子ども自分の子ども」だと思って指導しています。「うちの子ども、よその子ども」んな大事な「一中の子」を合言葉に、一人一人の生徒が素直な心で学び、社会に貢献できる人間に育てられるよう、今後ともご理解とご協力をお願い致します。

のすみよし祭は「共創し共に創りあげる笑顔と感動を」のテーマのもと行なわれてきました。しかし今年には新型コロナウイルスの影響で取り組み期間が一週間というとても短い期間となつてしまいました。そんな中でも、私にはとても印象に残つたことがあります。それは、先輩方の姿です。先輩方は短い取り組み期間の中、少しでもすみよし祭を良いものにしてようと全校の先頭に立ち、学校全体を引っ張っていかれました。特に全校ソーランの練習の時、先輩方の踊るソーラン節は迫力があり、すみよし祭にかける熱い思いが伝わってきました。それを見て、私たち一年生は先輩方の思いに伝えたいという気持ちで、全力で準備や競技の練習をすることができました。そして、笑顔と感動で終わることのできるすみよし祭となりました。

さらに自然体験学習では、初めて学年総会を開き、目標や約束を自分たちで決めました。自分たちで決めたルールを自分たちで守ることによって達成感や充実感を味わうことができました。そして、絆を深めることができました。また、仲間と共に学習することの楽しさを改めて知ることができました。

このように私たち一学年はさまざまな行事を通して、物事に全力で取り組むことや仲間を大切にすることができるようになりました。しかし、まだ課題もあります。授業中の私語が多いことで

二学年生徒会長 矢ヶ崎 力

す。そのため、学年生徒会を中心として、私語をなくすため積極的に声かけを行っています。来年は二学年となり、私たちが先輩になります。これまで身につけてきた一学年の力を二学年に活かして、さらなる成長していきたいです。

秋晴れの心地よい十一月中旬、私たち二年生はさらなる高みを目指して社会体験学習に行ってきました。先生方にはコロナ禍でも感染症対策を徹底した活動場所や宿舎などを模索して頂きました。二年生全員で感謝したいと思えます。社会体験学習に向けて、学年生徒会では「どんな社会体験学習にしたか」「どんな姿で帰ってきたか」などを、時間をかけて話し合いました。その中で身につけた三つの力が明確になり、スローガンは「力」に決定しました。どの場面でも高めることができるかを話し合った結果、リーダーとフォロワーが互いに主体的に声をかけ合う場面だと思えました。声かけにすぐに対応できればスムーズに行動でき、その力は日常生活にもつながります。

二つ目は「危機回避力」です。災害や感染症など、自ら危険を予測し回避する力が必要だからです。この力は今最も大切で、コロナ禍で自ら危険を回避し、密を避けて行動する必要があると思います。

三つ目は「判断力」です。今か

ら正しい判断ができる力を身につけることは、将来大人になつて社会に貢献することにもつながります。

当日。最初は、正直学びより楽しみの気持ちの方が大きかったです。しかし、学びの場面に入った瞬間、全員が講師の方の目を向け、たくさんメモをとる、主体的な姿が見られました。

二日目は、学習のまとめとして「身近な平和」について考えました。学校生活において身近な平和を脅かすことは、例えばいじめや嫌がらせです。これら問題を解決し、まずは自分たち二学年の集団が、誰にとっても居心地がよく安心できる平和な場所にする必要があると考えました。今回全員が身近な平和について考えられたこと、とてもよい機会になったと思います。この学年はもっと上を目指します。私たちが高めた「力」とともに、この学年の成長を楽しみにしていきたいください。

三学年生徒会長 兼子 陽斗



その中でも特に三年生は、受験を控えていながらも、授業に大幅な遅れがあらぬという事実により一層不安感を強めていたと思えます。

修学旅行が延期、部活動も思い通りには行えず、ますます不安になる中、何とか思い出に残る物を創ろうと皆で力を合わせました。今年のみよし祭の規模は縮小し、中心となつても、三年生が中心となつて創りあげたすみよし祭の大きな思い出になつたと思います。

また、そういった行事だけでなく、日常生活にも徐々に力が入り、特にリーダーが中心となつて呼びかけを行う三分前着席は今では習慣化しており「時間を守れる」というところがこの学年の強みとなり、大きな成長に繋がったと思えます。

このように時間への意識の高まりや、リーダーの成長を強く感じている反面、課題として自分から積極的に取り組んだり、周囲の人たちをまとめる人が少ないことが挙げられます。



すみよし祭

全校発表部門 勝俣 大聖

最高学年として、三年生全員がリーダーになれるよう、残りの三ヶ月間、さらなる成長を送りたいと思えます。

今年度は新型コロナウイルスの影響で多くの制限が課せられたすみよし祭の開催となりました。私の所属した全校発表部門でも、活動内容が制限された中で昨年からの始まった全校ソーランをどのように継承していくかを考えました。ソーラン隊として団結し意識を高め、目的にみんなと練習しました。ブロック練習、全校一斉練習と規模が大きくなるにつれて、思いを伝えていくことが難しくなっていました。自分たちの考えていることがうまく伝わらず、教えている、わかっていない、大変さを知らず、困っていました。自分



繋ぐ伝統

生徒会長

有川 駿佑

ン隊のみんなが支えてくれたおかげで、短い取り組み期間でも伝統を築きあげることができました。発表が終わった後、観客の皆さんがとても温かい拍手をしてくれました。その拍手を聞いたとき、私たちの伝えたいことがしっかり伝わったのだと思うことができました。

今年度のすみよし祭は、決して思うような形での実施ではありませんでした。しかし縮小されてしまったからこそ、例年よりも一つ一つの競技に全力で取り組むことができました。全力でやり終えたすみよし祭の後、私たちは誰一人後悔することはありません。このすみよし祭を通して、私たちは学校全体としてさらに団結することができたと思います。今年度も残り少ないですが、この経験を生かして、さらにレベルアップしたい一中を創り上げていきたいです。



私たち生徒会は「喜色満面」笑顔でつながる一中の「華々」をスローガンに掲げ活動してきました。今年度はコロナウイルスによる感染症拡大に伴い、様々な活動や行事が制限されました。そこで私たちはできないことではなく、こんな状況からできること、こんな状況からこそやらなければならぬことを考え、全校生徒が心でつながる活動をしてきました。

思い出深い主な活動は二つあります。一つはリモートで行った生徒総会です。リモートでの生徒総会では昨年度から導入された電子黒板を利用して行い、感染症対策をしながら、全校で一中の方向性を決める大切な会になりました。

もう一つはすみよし祭です。今年度は合唱が制限されたことから文化の部は行わずに体育の部を半日で行いました。このすみよし祭を行うために一週間という短い期間でしたが密をつくらないように行ったり、マスクをつけないで行ったりと、初めての体験で非常に難しい取り組み期間を過ごしました。しかし、そのような中でも全校生徒が生徒会執行部



に協力してくれました。その結果、感動に包まれることもに、全校生徒みんなが笑顔になりました。そして、これまでにもこれからは創ることのできない唯一無二のすみよし祭となりました。

来年度もいつ何が起ころかわかりません。それでも全校生徒のみんなは団結して、協力してくれると思います。だから、新生徒会のみならず、命取り組んでください。そして今の一中がさらによりよくなるように頑張ってください。

令和三年度生徒会長
熊谷 凌太

私は、選挙で「つながり」という言葉をスローガンに掲げました。「つながり」というのは、「頑張っている人を応援すること」「注意すべき時に注意し合うこと」「うまくいかない時に支え合うこと」「全員で一つの目標に向かうこと」など、全てに「つながり」はあると思います。先輩・後輩・地域の方・保護者の方、年齢関係なく全ての人が「つながり」があります。

そこで、私は二つのマニフェストを掲げました。一つ目は、あいさつ・礼儀

編集後記

今年度は人との絆が失われそうの中で、「繋がっていたい」という思いが強く湧き上がりました。心の根底に恐怖は常にあります。厳しい状況ですが、見えない相手に惑わされず、すべきことをやり、心は穏やかでありたいと思います。

今回、原稿の依頼をさせて頂きました皆様方には、お忙しい中快く承諾して頂き、ありがとうございました。皆様方のご協力により無事に『瓦版』を発行する事が出来ました。編集にあたり、色々のご尽力して頂きました。広報委員の皆様、担当の先生方に感謝致します。今年も残り僅かですが、お身体には充分に気をつけて新しい年を迎えられますよう、心からお祈り申し上げます。

- | | |
|------|--------|
| 委員長 | 金子 江美香 |
| 副委員長 | 中村 美緒 |
| 委員 | 渡邊 一貴 |
| | 萱沼 由佳 |
| | 須田 美帆 |
| | 若林 純子 |
| | 竹俣 ゆみ |
| | 長田 清美 |
| | 堀内 いその |
| 担当教諭 | 高村 江里子 |
| | 原田 美貴 |
| | 砂田 翔子 |
| | 小林 悠樹 |